

February 1998



天文台と星空：夕闇に浮かぶ天文台、まるで宇宙船が着陸したように見えます。えっ？見えない。大きな星は月で、背景にペルセウス座、おひつじ座、くじら座などが写っています。天文台が明るく見えるのは岬センターの外灯のせいです。

Prologue

My Stars system 登録者の皆様いかがお過ごしでしょうか。早いもので My Stars system も開始から3度目の冬を迎えました。「星の登録者」も3,237人(1月28日現在)となり、3237の想いが込められている訳です。ところで My Stars 通信が10ヶ月ぶりの発行となるわけですが、別にサボっていたわけでは無いんですよ... (言い訳です)。

皆様ご存知のことと思いますが、去年はフジテレビの人気ドラマ「白線流し」の舞台となったため、多くの方が天文台を訪れました。8月8日放送の翌日から急に来台者が増え、8月だけで1万人を超えました。今も時々白線流しファンが訪れています。

昨年暮れにインターネット上にホームページを開設しました。利用できる方は覗いてみてください。

綺羅星・星座図譜

うさぎ座 (Lepus)

冬の星座の代表オリオン座の南にうさぎ座と言うかわいい星座があります。小さくあまり明るい星のない星座なので新しいものかと思えば、意外に古くトレミーの 48 星座に含まれています。トレミーの星座はギリシャ神話を基に作られているので、当然うさぎ座もギリシャ神話に関係していて、猟師オリオンの狩りの獲物となっています。またアラビアでは、「オリオンの足を乗せる台」と呼ばれ、β(ベータ)星はニハル(のどのかわいたラクダ)といえます。

うさぎ座の星は3～4等級の星が、横に寝かせた"H"のような並びになっています。うさぎの南側にやや小さな球状星団 M79 があります。大きな望遠鏡で見ると細かい星がぎっしり詰まっているのがわかります。

はと座 (Columba)

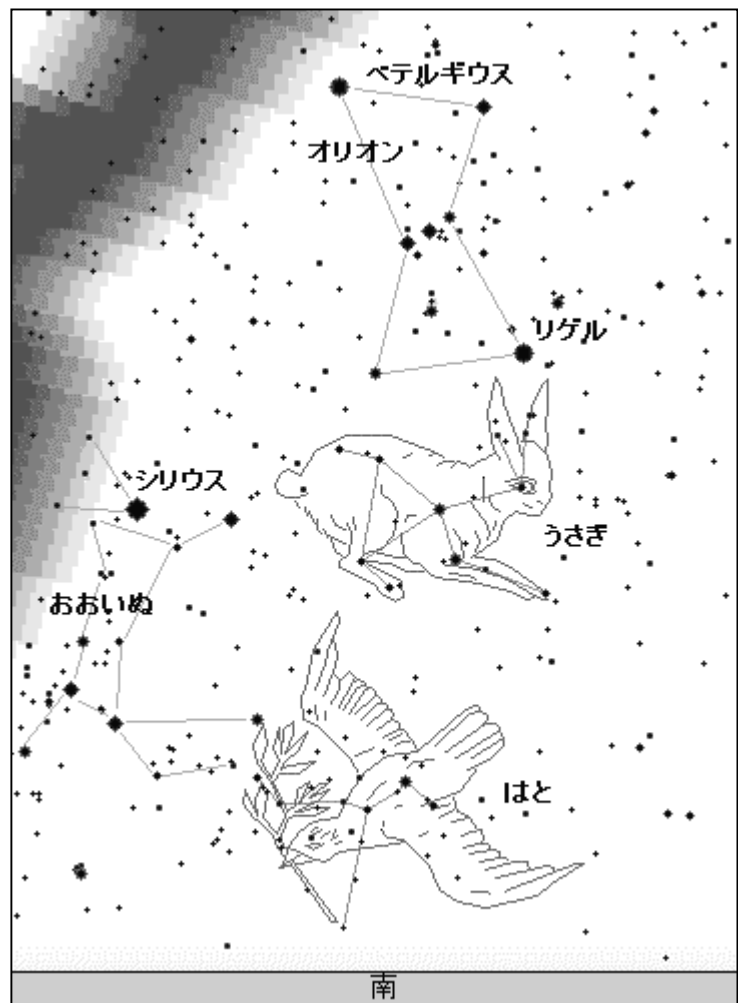
うさぎ座のさらに南にはと座があります。緯度が低く初山別からは、一番低い星が地平線上ぎりぎりに見えるため、透明度が悪いときはよく見えません。

この鳩はあたらしい星座の一つで、1679年にロワーエによってつくられました。由来は「ノアの箱船」から放たれた鳩だとされていますが、東隣りにあるアルゴ座(竜骨座、船尾座、帆座、羅針盤座に分割)をノアの箱船として、そこから飛び出した鳩を想像したものでしょう。実はそれよりも遙か昔のギリシャ時代にさかのぼり、アレキサンドリアの神学者クレメンスはここに「はとの星座」として記録しています。

ノアの箱船伝説はご存じの方もいることでしょう。

「地上に悪がはびこったことを悔いたエホ

バの神は、洪水を起こしてすべての人間、動物、植物を滅ぼそうと考えました。しかし、神を信じるノアという老人だけは生かすことを考え、ノアに『大きな箱船を造りその中におまえの家族と獣や鳥、虫などを一組ずつ乗せて避難するがよい』といいました。お告げ通りノアは箱船を造り動物たちを乗せましたが、そんな様子を見ていたほかの人々は、あざけり笑うだけでだれ一人手伝おうというものはいません。ノアたちが乗り込むと40日と40夜雨が降り続き、地上のすべての生き物は洪水で洗い流されてしまいました。やがて洪水もおさまり船はアララテの山でとまりました。地上の様子がどうなっているのか知るため、一羽の鳩を放ちました。やがて鳩はオリーブの若枝をくわえて戻ってきたので、はじめて洪水がおさまったことを知りました。」



ロワーエが制定した鳩はこの「ノアの鳩」ということです。

はと座は面積も星の数も少なく、しかも周りにはオリオン座やおおいぬ座など有名なものがたくさんあるので、せっかく有名な神話があるのに目立たない存在になってしまっています。

ペガサス座 (Pegasus)

ペガサス座はトレミーが作った古い星座で、カシオペア座と並んで秋を代表する星座の一つになっています。

ギリシャ神話では、勇士ペルセウスによって退治された怪女メドゥーサの血の中から誕生したとされる天馬で、風よりも速く天を駆けることができたといわれています。ペガサスは生まれるとすぐに神々の住むオリンポスの山へ飛んでいき、大神ゼウスの雷や稲妻を運ぶ役目をしていました。

ペガサス座の胴体部分にはややゆがんだ四辺形を作る2～3等星があります。左上の星は隣のアンドロメダ座からの借り物ですが、この四辺形を「秋の大四辺形」といい、ほかの星を探するときの物差しとして使われることがあります。たとえば、縦に並ぶ星を北へのばすと北極星が、右の星を南へのばせばフォーマルハウトが、下の星を西へのばせばアルタイルが見つかり

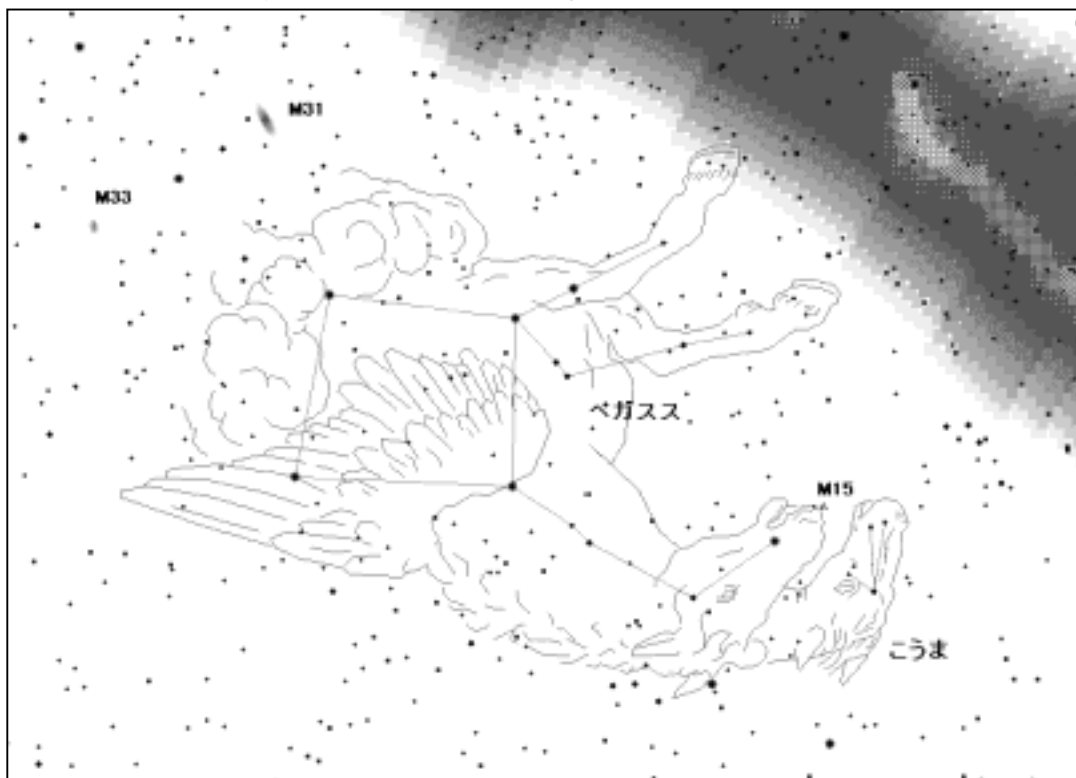
ます。

鼻先にある ϵ (イプシロン)星は普段は2.4等星ですが、突然明るくなってわし座のアルタイル(0.9等星)と同じくらいに見えることがあるという、不規則な変光星です。同じく鼻先にM15という球状星団があり、ちょっと大きめの望遠鏡では星が密集しているのがわかります。

こうま座 (Equuleus)

ペガサス座の鼻先(西隣り)に小馬座という小さな星座があります。星座絵では馬の頭しか描かれていないので、中途半端な気もしますが、小馬座は紀元前127年にヒッパルコスによってつくられ、トレミーが48星座に加えたものです。神話はあまり残されてなく、ヘルメスが馬術の名人カストル(双子座)に送った名馬ケレリスと言うのが一般的です。

星座の面積は南十字座に次いで小さく、71.6平方度しかありません。肉眼で見える星も10個で、4～5等星が南北に長い三角形をつくっています。



1998 年の主な天文現象

2月20日 金星が最大光度

このころの金星は明け方の東の空にあります。その金星がもっとも明るくなります。このころは望遠鏡がなくても、昼間に肉眼で見つけることができます。24日は月が金星のそばにあるので目印になるでしょう。

4月1日 おうし座のアルデバランが月に隠される

おうし座の1等星アルデバランが17時18分～18時17分の間、月にかくされる星食が見られます。アルデバランが月に隠れるのはまだ周りが明るいときなので、出てくるところの方が見やすいでしょう。月の明るい部分からでてきます。

4月23日 金星と木星が大接近

明け方の東の空にある金星が木星に、満月の大きさの半分くらいまで接近します。どちらも明るく大きいので、50倍くらいの倍率で模様や形が見られます。金星は半月より少し太った感じで、木星は丸く模様や4つの衛星も見えます。

5月29日 明け方の空で金星と土星が大接近

4月に金星と木星の大接近がありますが、今度は金星と土星の接近があります。こちらも月の大きさの半分くらいまで接近します。土星の環は50倍くらいでも十分見えますので一度にふたつの惑星を見ることができます。金星は半月と満月の間くらいの形で、ちょっと小さくなっていますが、土星の方はUFOのように見えます。

8月12日 ペルセウス座流星群が極大

毎年夏休み中に見られる流星群で、明るく青白い流星はなかなか見ごたえあります。今年は満月過ぎの月が真夜中近くに出てきます。月が出る前に見るといいでしょう。他にもいくつかの流星群が活動しているのであちこちに見られます。

8月22日 東南アジアで金環日食

インドネシア方面で金環日食(太陽がドーナツ状に見える)がみられますが、日本では兵庫県より南の地方で小さな部分日食がみられます。

9月17日 木星が衝

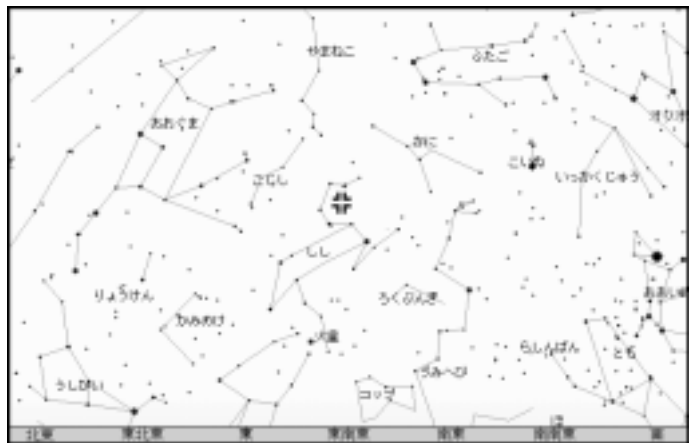
木星が地球に最接近して翌年2月ころまで観望できます。

10月25日 土星が衝

土星が地球に最接近して翌年3月ころまで観望できます。これからしばらくは夏休み中にみることが出来ません。

11月18日 しし座流星群が極大

33年ごとに大出現を繰り返す流星群で、165年前には「空が燃えた」といわれるくらい流星が降ってきたとされています。条件がよければ1時間に1万個とは言わないまでも1000個くらい流れるかもしれません。しし座の頭の部分から流れるように見えますが、



このような大流星群では空全体に流れるのでどこを見てもみられます。今回を見逃すと次は33年後になります。

12月13日 ふたご座流星群が極大

3大流星群の一つで月明かりもなく良い条件で見られます。この流星群は一晩中見られ、1時間に50個程度見られます。